

南長岡駅構内で発生した鉄道人身障害事故に対する声明

1月27日、信越線・南長岡駅構内において、操車担当の組合員が入換作業中に貨車から転落して両足を切断、骨盤を骨折するという鉄道人身障害事故が発生しました。大けがをした組合員は21歳と若く、将来にむけて大きな希望を持って仕事に従事し、また充実した生活を送っていました。JR貨物労組として、今回の事故を発生させてしまったことについて、組合員ご本人とご家族の皆様には深くお詫びします。

JR貨物労組がこれまで取り組んで来た安全確立闘争が不十分であったことを自覚して反省し、同種の事故を再び起こさないために、作業そのものを見直すことも含めて、「命を最大の価値基軸」として、安全確立の闘いを直ちに実践していくこととします。また組合員ご本人に対する身心両面のフォローを、全力を挙げて取り組みます。

今回の事故に至るまでに、全国で入換作業に関わる事象が複数回発生していました。一つひとつの事象に対して、原因究明と再発防止にむけた取り組みを行なってきましたが、今回の事故につながってしまったことを受け止めなければなりません。

組合員の皆さん。今回の事故は、組合員の命に関わる「非常事態」であり、全国の全ての職場と、全ての組合員に関わる重要な課題です。全国の職場から不安全作業と不安全箇所の撲滅をめざし、自らと仲間の組合員の命を守るために、組合員との議論を通じて、改めて安全についてむき合い、安全最優先の職場風土の確立を構築しましょう。

中央本部は、関係機関と連携し、早急に事故原因と背後要因の解明、再発防止対策を確立するために行動します。

2 0 2 6 年 2 月 9 日
日本貨物鉄道労働組合（JR貨物労組）
中 央 執 行 委 員 会